

科目名	書道 I	授業時数	週 1 単位
		コース・学年	志学 コース 2 学年
目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	目的や用途に即した芸術的な表現について構成する事項を確認し、自ら表現活を行うことが出来る。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考えることが出来る。	書の持つ良さや文字に高い関心を持ち、生涯にわたって書道の文化を大切に出来る。
	A わかる	古典の美とその技法を学び、普遍性のある表現を構想し、工夫することが出来る。	書のもつ良さや美しさを想像的に味わうことが出来る。	表現活動を通し意図的、主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わうことが出来る。
	B できる	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想することが出来る。	自己のねらいを達成するために、伝統的な書の美を感受し、書で表現することができる。	古典の美とその技法に関心を持ち、積極的に表現技法を高めることが出来る。
	C する	自らの完成に基づいた表現の工夫を行い、段階的に表現力を高めることが出来る。	書の効果的な表現を模索し、実作に移すことが出来る。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
評価方法	提出作品 (練習・清書作品) 理論に関する筆記試験	ワークシート	授業に臨む姿・様子 ワークシート	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・「漢字の書」行書の古典に学ぶ ・行書の古典を基にした漢字創作
2 学期	・「漢字の書」隷書の古典に学ぶ ・「漢字仮名交じりの書」 I
3 学期	・「仮名の書」 ・仮名作品の創作 ・「漢字仮名交じりの書」 II

何で学ぶか(教材)

『書 I』教育図書 補助プリント ワークシート 書道用具一式

どのように学ぶか(授業方法など)

【実技・鑑賞・発表】 一斉授業 グループ学習

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	志学	コース 文
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 身近な話題に関する記事、レポート、資料の概要や要点を理解し、必要な情報を読み取り、要点を理解することができる。	関心のある分野の話題について、英語を用いて具体的に説明したり、意見を述べることができる。	英語を活用し、自ら様々なことを表現し、表現することができる。
	A わかる 身近な話題に関する短めな記事、レポート、資料の概要を理解することができる。	身近な話題や関心のある話題について簡単な語句や文を用いて、自分の意見やその理由を短く述べる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 平易な英語で書かれたごく短い英文を読み、イラストや写真も参考にしながら概要を理解できる。	身近な話題などについて基本的な表現を用いて簡単な質疑応答ができる。	分からないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 短い簡単な会話や説明文の意味を理解することができる。	身近で具体的な事物を表す単語の意味を理解し、発音できるようにする。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson1 I'm the Strongest Lesson2 Tokyo's Seven-minute Miracle Lesson3 Saint Bernard Dogs Lesson4 Chanel's Style
2 学期	Lesson5 Science of Love Lesson6 Gaudi and His Messenger Lesson7 Letters from a Battlefield Lesson8 Edo: A Sustainable Society
3 学期	Lesson9 AI and Our future Lesson10 Bhutan: A Happy Country

何で学ぶか(教材)

Revised LANDMARK English Communication II 必携英単語LEAP

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	英語表現Ⅱ	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学 コース 文	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	S 使える 文法内容を正しく理解しており、その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用して、場面・目的・状況に応じた話題について、的確で適切な表現をすることができる。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用し、情報や考えを話したり、書いたりして表現することができる。
	A わかる 言語の働きや役割（文法内容等）はほぼ理解しており、聞き手に伝えたい情報量も豊かである。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。	英語学習を通して、言語の持つ役割や文化的背景を理解し、相手意識を持ってコミュニケーションを図ることができる。
	B できる 英語の文化的背景を理解し、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語を使う目的等に応じて、その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会と関わり、またコミュニケーションを持つことができる。
	C する 英語を用いたコミュニケーション活動において簡単な語句や表現などの英語を使ったり、聞いたりしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが、自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さや、文化的背景に気づき、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法	- 授業 - 定期考査 - クリアテスト	- 授業 - 定期考査 - 提出物 - インタビューテスト	- 授業 - 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	PART 1 文をデザインする Lesson 1 ～ Lesson 7 主語を決める、動詞を決める Grammar Focus 1, Activity for Communication 1
2 学期	Lesson 8 ～ Lesson 17 動詞の形を決める、助動詞を使う 修飾語を加える Grammar Focus 2/3, Activity for Communication 2/3
3 学期	Lesson 18 ～ Lesson 20 比較を表す、否定を表す Grammar Focus 4/5, Activity for Communication 4/5

何で学ぶか(教材)

• Vision Quest English Expression II Ace（啓林館） • Write to the Point（数研出版）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習、ペア学習 ICTを活用した個別学習

科目名	音楽Ⅰ	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	志学	コース 文
目標	より高度で幅広い音楽活動を通して音楽を愛好する心情を育むと共に、音楽の歴史と大作曲家の名曲に触れることで音楽文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	打楽器とリコーダーを使ったアンサンブルができる。	グループでイメージを共有し、表現するための技能を身につけることができる。	グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。
	・音楽の様々な表現方法を知ることができる。 ・音楽の歴史的背景に関心を持ち鑑賞することができる。	・アーティケレーションをつけた表現ができる。 ・時代による音楽のスタイルの違いを感じ取ることができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。
	・腹式呼吸や正確なリコーダーの運指で、合唱・リコーダーアンサンブルができる。 ・音楽の歴史に関心を持つことができる。	・井や㇓のあるメロディを流れるようにスムーズに演奏することができる。 ・時代による音楽の変化を感じ取りながら鑑賞することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	・合唱とリコーダーアンサンブルに意欲的に取り組むことができる。 ・音楽の歴史と鑑賞を学ぶことの意義を理解できる。	音楽に関心を持ち、合唱やリコーダーアンサンブルに喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ルネサンス・バロック時代の音楽 アルトリコーダー「グリーンスリーブス」 歌唱「見上げてごらん夜の星を」
2 学期	古典派・ロマン派の音楽 歌唱・リコーダー「花」
3 学期	近代の音楽 歌唱「Memory」 アルトリコーダー「モルダウ」

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAⅠ」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名	化学基礎	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学 コース 文系	
目 標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	<i>S</i> 使える 化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、難易度の高い演習問題に対して答えを導き出すことができる。また、実験、実習の技能が確実に身につけている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。提出課題を期限内に提出しその質も高い。
評価	<i>A</i> わかる 化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、標準的な演習問題に対して答えを導き出すことができる。また、実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かること もとに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。提出課題を期限内に提出する。
基準	<i>B</i> できる 化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、基礎的な演習問題に対して答えを導き出すことができる。また、実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。提出課題を提出する。
基準	<i>C</i> する 化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解しようとし、演習問題に対して答えを導き出そうとする。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。提出課題を提出しようとする態度が見られる。
評価方法	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート 等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	序章 化学と人間生活 第1章 物質の構成
2 学期	第2章 物質と化学結合 第3章 物質の変化 1 節 物質と化学反応式 2 節 酸と塩基
3 学期	第3章 物質の変化 3 節 酸化還元反応 受験対策演習

何で学ぶか(教材)

実教出版『化学基礎 新訂版』
教研出版『四訂版リードLightノート化学基礎』
演習プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習
実験，実習
グループ活動

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学 コース 文	
目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	複雑な文章の正確な読み取りと理解および語彙の正確な意味の理解、活用ができる。	必要な情報を用い、課題や目的に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	自分の意見、他者の意見を論理的にまとめ、表現する力を高めるとともに、その向上を図ろうとする。
	A わかる	近代以降の様々な文章を通して、論理展開の形式や語彙、文学の表現技法等を正確に理解する。	論理展開や描写、表現技法を把握しつつ、文章の主題を的確捉えて表現できる。	自らの意見をまとめ、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
	B できる	文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読むことで、自分の考えを深め、発展させている。	自分の考えを適切に整理し、論理的かつ効果的に表現できる。	自分の考えをまとめつつ、周りの友人と共同して課題解決に努める。
	C する	文章展開および言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付ける。	基礎的な語彙力や文法力に基づき、筋道を立て考えつつ、それを表現する。	授業に必要な教材の準備や、身だしなみ等を整える。
評価方法		授業時の観察・定期考査・小テスト・校内漢字テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト・レポート等	授業に臨む姿勢や意欲、グループ活動等での活動成果

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	[随想]感性的な表現の読み取り方 [小説(1)]小説の基本的な読み方 [評論(1)]評論文の基本的な読み方
2 学期	[評論(2)]論の展開、論拠、要旨を的確にとらえる。 [小説(2)]小説の多様な在り方を理解する [短歌・俳句]表現上の特色をとらえ、作品を深く味わう [詩]詩の構成に沿って、作者の心情をつかむ。
3 学期	[評論(3)]論の展開に沿って適切に読み取る。 [評論(4)]対比による論の展開を理解する。 [小説(3)]長編小説の展開を丁寧に追って作品の主題に迫る。

何で学ぶか(教材)

東京書籍『精選現代文B』
東京書籍『精選現代文B 学習課題ノート』
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習・ペア学習

科目名	古典B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学	コース 文
目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 語句の意味、文語や訓読のきまりを理解し、日本の文化の特質や外国の文化との関係について理解を深めることができる。	古典特有の表現に注意し内容を的確に捉えるとともに、古典の作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ、自分の考えを深めることができる。	すすんでさまざまな古典の文章を読み、先人のものの見方、考え方との関わりの中で伝え合う力を深め、自分の思いや考えを広げることができる。
	A わかる 語句の意味、文語や訓読のきまりを理解し、日本の文化の特質や外国の文化との関係について考えることができる。	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えるとともに、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	すすんでさまざまな古典の文章を読み、先人のものの見方、考え方との関わりの中で伝え合う力を深め、自分の思いや考えを広げようとするすることができる。
	B できる 古文を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについてじゅうぶんに理解することができる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈することができる。	さまざまな古典の文章に親しみ、日本の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとするすることができる。
	C する 古文を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解しようとするすることができる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈しようとするすることができる。	授業を受けるための準備を整え、さまざまな古典の文章に親しもうとするすることができる。
評価方法	授業・小テスト・定期考査	授業・小テスト・定期考査	授業・小テスト・定期考査・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	(古文)『十訓抄』『宇治拾遺物語』『古今著聞集』『徒然草』『方丈記』 (漢文)『季札挂劍』『漱石枕流』『梁上君子』『病入膏肓』『不顧後患』『紀昌貫虱』『畏饅頭』
2 学期	(古文)『竹取物語』『伊勢物語』『大和物語』『枕草子』 (漢文)『鹿柴』『宿建德江』『春夜洛城聞笛』『別董大』『涼州詞』『送友人月夜』『鴻門之会』『四面楚歌』
3 学期	(古文)『源氏物語』『大鏡』 (漢文) 儒家・道家の思想 論語、孟子、荀子、老子、莊子

何で学ぶか(教材)

三省堂『精選古典B改訂版』 数研出版『体系古典文法』 数研出版『体系古典文法 準拠ノート』 尚文出版『新明説漢文』 桐原書店『重要古文単語315』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習(学級単位による授業)

科目名	数学Ⅱ	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	志学 コース 文	
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け、別解の考察、条件の変更、異なる表現の工夫など、多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り、評価・改善しようとするとともに、よさを味わうことができる。
	A わかる	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋をや、よりよい解決を求めて、粘り強く考え続けることができる。
	B できる	事象を論理的に考察し、適切な用語・記号を使い、解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	問題文の意味を理解し、適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	- 授業 - 定期考査 - クリアテスト	- 授業 - 定期考査 - 提出物	- 授業 - 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数
2 学期	第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法
3 学期	数学ⅠAⅡB 問題演習

何で学ぶか(教材)

- 改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版) - チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B (数研出版) - プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 問題解決的な手法を導入し、概念を創り出す場面を経験させたい。
--

科目名	数学B	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学 コース 文	
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	他の領域との関連付け，別解の考察，条件の変更，異なる表現の工夫など，多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとするとともに，よさを味わうことができる。
	A わかる	事象を論理的，かつ統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋をや，よりよい解決を求めて，粘り強く考え続けることができる。
	B できる	事象を論理的に考察し，適切な用語・記号を使い，解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	簡単な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し，適切な用語や記号を用いて考察することができる。
評価方法	・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形 空間のベクトル
2 学期	等差数列と等比数列 いろいろな数列
3 学期	いろいろな数列 漸化式と数学的帰納法 演習

何で学ぶか(教材)

- 改訂版 高等学校 数学B (数研出版) - チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B (数研出版) - プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 問題解決的な手法を導入し、概念を創り出す場面を経験させたい。

科目名	世界史A	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学 コース	文
目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けて考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。	世界の歴史に対する興味・関心を高め、意欲的に課題に取り組み追及している。
	<i>A</i> わかる 世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ、他と協働しながら課題を解決することができる。
	<i>B</i> できる 世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件と関連付けながら理解している。	問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取ることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	<i>C</i> する 世界の歴史についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。	過去の出来事が、現在の国・集団・地域の現状に影響を与えていることを知る。	授業を受けるための教材の準備をし、授業に意欲的に参加し発言することができる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	前近代の諸文明 アジア・アフリカ・ヨーロッパ・南北アメリカの文明 一体化に向かう世界 繁栄するアジア・大航海時代
2 学期	欧米の工業化とアジア諸国の動揺 ヨーロッパとアメリカの諸革命・アジア諸国の動揺・東アジアの大変動 現代社会の芽生えと世界大戦 第一次世界大戦・民族自決・第二次世界大戦
3 学期	冷戦から地球社会へ 冷戦・冷戦の終結・地球社会への歩み

何で学ぶか(教材)

帝国書院『明解 世界史A』 帝国書院『明解 世界史Aノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	世界史B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学 コース	文
目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	世界史Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
	A わかる	諸問題（政治・外交・経済等）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	世界史のとびら、序章 先史の世界 第1章 オリエントと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成
2 学期	第4章 イスラーム世界の形成と発展 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開（前半）
3 学期	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開（後半） 第7章 アジア諸地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成（導入）

何で学ぶか(教材)

山川出版社『改訂版 詳説 世界史B』 啓隆社『新世界史要点ノート 応用編』 啓隆社『世界史重要語句Check List』
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 課題 討議

科目名	総合的な探究の時間	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	志学	コース 文
目標	「人生100年時代」について、様々な角度から学び、今までどう生きてきたか・これからどう生きていきたいかを、今の自分の視点から考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	<i>S</i> 使える 他者との会話や書籍など授業内で学んだ知識をもとに工夫を加えて知識・技能を使える。	論文を考える中で、特に独創性があり、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して特に積極的に取り組み、課題を自ら設定して解決することができる。
	<i>A</i> わかる 他者との会話や書籍など授業内で学んだ知識をもとに、求められる水準で知識・技能を使える。	論文を考える中で、独創性があり、他者とも協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して積極的に取り組み、与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	<i>B</i> できる 他者との会話や書籍など授業内で学んだ知識をもとに課題をやり遂げることができる。	論文を考える中で、他者とも協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して熱心に取り組み、与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	<i>C</i> する 他者との会話や書籍など授業内で学んだ知識をもとに、課題に取り組もうとする。	論文を考える中で、他者とも協調しながら構想を形にしようとすることができる。	学習内容に取り組み、与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法	論文作成に至るまでの成果物と論文	論文作成に至るまでの成果物と論文	論文作成に至るまでの成果物と論文

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	職業調べ 大学・学部・学科調べ 書籍の要約
2 学期	書籍に関連する講義 論文プラン作成 論文作成
3 学期	論文作成 自己評価 他者評価

何で学ぶか(教材)

書籍「LIFE SHIFT」 書籍「科学的な適職」 オリジナルプリント クロムブック

どのように学ぶか(授業方法など)

- 資料の要約作成（個人） - クロムブックでの作成 - 講師招聘 など
--

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

科目名	地学基礎	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース
目標	地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。 実験、実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。 実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることともに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。 実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法		定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート 等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1編 惑星としての地球 第6編 宇宙の構成
2 学期	第2編 活動する地球 第4編 移り変わる地球
3 学期	第3編 大気と海洋 第5編 地球の環境

何で学ぶか(教材)

教科書(数研 地学基礎(304)) ワーク(第一 ネオパルノート)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習 実験、実習 グループ活動 (ポスターセッション等)
--

科目名	地理B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学	コース 文
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	地理Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
	<i>A</i> わかる 諸問題（災害、エネルギー問題、食料問題、人口など）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	<i>B</i> できる 課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	<i>C</i> する 基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能 1 章 地理情報と地図 2 章 地図の活用と地域調査 第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1 章 自然環境
2 学期	2 章 資源と産業 3 章 人口、村落、都市
3 学期	4 章 生活文化、民族・宗教

何で学ぶか(教材)

帝国書院 新詳地理B 帝国書院「新詳地理資料COMPLETE2021」 帝国書院「新詳高等地図」
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 作業（白地図を利用した作業など） 討議

科目名	日本史B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学	コース 文
目標	歴史的思考力を培うなかで基礎歴史事項の確認とともに、多様化する現代社会の中での課題を考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
基	日本史と各地域の歴史の関連性を理解することができる。	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
準	日本史と世界史を関連づけながら理解することができる。	平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	日本史を理解するために必要な語句を理解することができる。	日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	日本文化のあけぼの 律令国家の形成 貴族政治と国風文化
2 学期	中世社会の成立 武家社会の成長 幕藩体制の確立
3 学期	幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺

何で学ぶか(教材)

詳説日本史B (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	美術 I	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	志学	コース 文
目標	幅広い美術活動を通して美術を愛好する心情を育むと共に、美術の歴史と大作画家の名作に触れることで美術文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	正確な描写, 明度の表現ができる。他者への指導もできる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	全ての学習を通して表現を工夫することができる。
	物の表現がある程度のレベルまで表現ができる。	形, 材質, トーンの表現ができる。	デッサン, 彩色学習に積極的に取り組むことができる。
	基礎的な表現法を身につけることができる。	構図を考えて, 表現することができる。	デッサン, クロッキー, 鑑賞・美術理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	基礎的な描写理論を理解することができる。	美術に関心を持ち, 描写や彩色に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション 名画鑑賞 2 ダビンチの人生とその作品, 背景と作品の模写 フェルメールの人生とその作品, 背景と作品の模写
2 学期	色彩構成 ポスター作製 砂絵の世界 1 サンドアートセットを使って
3 学期	砂絵の世界 2 オリジナル作品の制作 まとめ

何で学ぶか(教材)

高校生の美術 1 (日本文教出版) 副教材 スケッチブック, 水彩画用具サンドアートセット。 それぞれの題材や活動で必要な材料は, 半期ごとに購入してもらいます。

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 作品鑑賞, 作品, 作者説明 作者の生き様, 時代背景までを理解しながら芸術作品を鑑賞する(YouTubeなどの映像コンテンツの使用)

科目名	保健	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	志学	コース
目標	生涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、自らの行動を振り返り、状況に合わせてしなやかに行動する力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	社会生活における健康の保持増進に関わる事情から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	A わかる	各段階における健康の課題や我が国の健康・医療制度や機関の適切な活用の仕方がわかる。	社会状況や自らの用途に応じて、適切な施設や制度の選択ができる。	様々な健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	B できる	健康の保持増進には、個人的要素だけでなく、社会的要素が深くかかわっていることを理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	思春期と健康、性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康、避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学期	中高年期と健康、医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学期	大気汚染と健康、水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備、食品の安全を守る活動 働くことと健康、働く人の健康づくり

何で学ぶか(教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習

科目名	倫理	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学 コース 文	
目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	基本的な概念や理論及び倫理的諸課題を十分に理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	倫理的諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断することができ、自らの意見をまとめることができる。	よりよい社会の実現を視野に、倫理的諸課題を主体的に解決するための討議・調査等を行うことができる。
	A わかる	基本的な概念や理論及び倫理的諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	倫理的諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し、自らの意見をまとめることができる。	倫理的諸課題について、その問題点や克服のための課題等に気づくことができる。
	B できる	基本的な概念や理論及び倫理的諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	倫理的諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察することができる。	倫理的諸課題について、教員に対して、またはグループ内で質問することができる。
	C する	基本的な概念や理論及び倫理的諸課題をある程度理解するとともに、諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	倫理的諸課題の解決に向けて、考察することができる。	授業に意欲的に参加し、グループ内等で発言することができる。
評価方法	定期考査 提出物 等	定期考査 提出物 等	授業態度 提出物 グループ討議 等	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	青年期の課題と自己形成 － 青年期の課題 人間としての自覚 － ギリシャ思想, 宗教思想, 中国思想
2 学 期	国際社会に生きる日本人としての自覚 － 日本思想 現代に生きる人間の倫理 － 西洋思想, 現代思想
3 学 期	現代の諸課題と倫理 － 生命倫理, 環境倫理, 情報倫理

何で学ぶか(教材)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習、グループ討議

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 身近な話題に関する記事、レポート、資料の概要や要点を理解し、必要な情報を読み取り、要点を理解することができる。	関心のある分野の話題について、英語を用いて具体的に説明したり、意見を述べることができる。	英語を活用し、自ら様々なことを表現し、表現することができる。
	A わかる 身近な話題に関する短めな記事、レポート、資料の概要を理解することができる。	身近な話題や関心のある話題について簡単な語句や文を用いて、自分の意見やその理由を短く述べるることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 平易な英語で書かれたごく短い英文を読み、イラストや写真も参考にしながら概要を理解できる。	身近な話題などについて基本的な表現を用いて簡単な質疑応答ができる。	分からないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 短い簡単な会話や説明文の意味を理解することができる。	身近で具体的な事物を表す単語の意味を理解し、発音できるようにする。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson1 I'm the Strongest Lesson2 Tokyo's Seven-minute Miracle Lesson3 Saint Bernard Dogs Lesson4 Chanel's Style
2 学期	Lesson5 Science of Love Lesson6 Gaudi and His Messenger Lesson7 Letters from a Battlefield Lesson8 Edo: A Sustainable Society
3 学期	Lesson9 AI and Our future Lesson10 Bhutan: A Happy Country

何で学ぶか(教材)

Revised LANDMARK English Communication II 必携英単語LEAP

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	英語表現Ⅱ	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	S 使える 文法内容を正しく理解しており、その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用して、場面・目的・状況に応じた話題について、的確で適切な表現をすることができる。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用し、情報や考えを話したり、書いたりして表現することができる。
	A わかる 言語の働きや役割（文法内容等）はほぼ理解しており、聞き手に伝えたい情報量も豊かである。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。	英語学習を通して、言語の持つ役割や文化的背景を理解し、相手意識を持ってコミュニケーションを図ることができる。
	B できる 英語の文化的背景を理解し、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語を使う目的等に応じて、その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会と関わり、またコミュニケーションを持つことができる。
	C する 英語を用いたコミュニケーション活動において簡単な語句や表現などの英語を使ったり、聞いたりしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが、自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さや、文化的背景に気づき、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法	- 授業 - 定期考査 - クリアテスト	- 授業 - 定期考査 - 提出物 - インタビューテスト	- 授業 - 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	PART 1 文をデザインする Lesson 1 ～ Lesson 7 主語を決める、動詞を決める Grammar Focus 1, Activity for Communication 1
2 学期	Lesson 8 ～ Lesson 17 動詞の形を決める、助動詞を使う 修飾語を加える Grammar Focus 2/3, Activity for Communication 2/3
3 学期	Lesson 18 ～ Lesson 20 比較を表す、否定を表す Grammar Focus 4/5, Activity for Communication 4/5

何で学ぶか(教材)

• Vision Quest English Expression II Ace (啓林館) • Write to the Point (数研出版)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習、ペア学習 ICTを活用した個別学習

科目名	音楽Ⅰ	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	より高度で幅広い音楽活動を通して音楽を愛好する心情を育むと共に、音楽の歴史と大作曲家の名曲に触れることで音楽文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	使える	グループでイメージを共有し、表現するための技能を身につけることができる。	グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。
評価	わかる	・音楽の様々な表現方法を知ることができる。 ・音楽の歴史的背景に関心を持ち鑑賞することができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。
基準	できる	・腹式呼吸や正確なリコーダーの運指で、合唱・リコーダーアンサンブルができる。 ・音楽の歴史に関心を持つことができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
基準	する	・合唱とリコーダーアンサンブルに意欲的に取り組むことができる。 ・音楽の歴史と鑑賞を学ぶことの意義を理解できる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ルネサンス・バロック時代の音楽 アルトリコーダー「グリーンスリーブス」 歌唱「見上げてごらん夜の星を」
2 学期	古典派・ロマン派の音楽 歌唱・リコーダー「花」
3 学期	近代の音楽 歌唱「Memory」 アルトリコーダー「モルダウ」

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAⅠ」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名	化学基礎・化学	授業時数	週 4 単位		2 学年
		コース	志学	コース	理
目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、応用問題に対して答えを導き出すことができる。実験・実習の操作が確実にできる。	化学的な事物・現象に問題を見出し、科学的な考察をもとに導き出した考えを的確に表現している。実験・実習のレポート作製ができる。	課題・ノート・ワークを期限を守って確実に提出する。授業においても、積極的な授業参加がみられ、主体的に活動している。
	A わかる	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、それを用いて答えを導き出すことができる。実験・実習の操作をおおむね身につけている。	化学的な事象や法則について科学的に考察し、論理的に説明することができる。	課題・ノート・ワークの提出期限を守り、授業においても、発言・質問をするなど、積極的な授業参加がみられる。
	B できる	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、知識をほぼ身につけている。実験・実習に取り組むことができる。	適切な用語・化学式を使い、事象や法則を説明することができる。	課題・ノート・ワークの提出ができ、授業に参加しようとする態度がみられる。
	C する	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、知識をある程度身につけている。	教科書・問題等の意味を理解し、用語や化学式を適切に用いることができる。	授業を受ける準備ができており、参加しようとする態度がみられる。
評価方法		授業・定期考査・小テスト・実験レポート	授業・定期考査・小テスト・提出物・実験レポート	授業・定期考査・小テスト・提出物・実験レポート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	物質の構成（化学基礎） 物質と化学結合（化学基礎） 物質の変化（化学基礎）
2 学期	物質の状態と平衡（化学）
3 学期	物質の変化と平衡（化学） 無機物質（化学）

何で学ぶか(教材)

実教出版『化学基礎 新訂版』 実教出版『化学 新訂版』 第一学習社『八訂版 スクエア最新図説化学』 数研出版『六訂版 リードα 化学基礎＋化学』 演習プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 実験・観察

科目名	現代文B	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	S 使える	複雑な文章の正確な読み取りと理解および語彙の正確な意味の理解、活用ができる。	必要な情報を用い、課題や目的に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	自分の意見、他者の意見を論理的にまとめ、表現する力を高めるとともに、その向上を図ろうとする。
	A わかる	近代以降の様々な文章を通して、論理展開の形式や語彙、文学の表現技法等を正確に理解する。	論理展開や描写、表現技法を把握しつつ、文章の主題を的確捉えて表現できる。	自らの意見をまとめ、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
	B できる	文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読むことで、自分の考えを深め、発展させている。	自分の考えを適切に整理し、論理的かつ効果的に表現できる。	自分の考えをまとめつつ、周りの友人と共同して課題解決に努める。
	C する	文章展開および言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付ける。	基礎的な語彙力や文法力に基づき、筋道を立て考えつつ、それを表現する。	授業に必要な教材の準備や、身だしなみ等を整える。
評価方法		授業時の観察・定期考査・小テスト・校内漢字テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト・レポート等	授業に臨む姿勢や意欲、グループ活動等での活動成果

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	[随想]感性的な表現の読み取り方 [小説(1)]小説の基本的な読み方 [評論(1)]評論文の基本的な読み方
2 学期	[評論(2)]論の展開、論拠、要旨を的確にとらえる。 [小説(2)]小説の多様な在り方を理解する [短歌・俳句]表現上の特色をとらえ、作品を深く味わう [詩]詩の構成に沿って、作者の心情をつかむ。
3 学期	[評論(3)]論の展開に沿って適切に読み取る。 [評論(4)]対比による論の展開を理解する。 [小説(3)]長編小説の展開を丁寧に追って作品の主題に迫る。

何で学ぶか(教材)

東京書籍『精選現代文B』
東京書籍『精選現代文B 学習課題ノート』
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習・ペア学習

科目名	古典B	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	語句の意味、文語や訓読のきまりを理解し、日本の文化の特質や外国の文化との関係について理解を深めることができる。	古典特有の表現に注意し内容を的確に捉えるとともに、古典の作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ、自分の考えを深めることができる。	すすんでさまざまな古典の文章を読み、先人のものの見方、考え方との関わりの中で伝え合う力を深め、自分の思いや考えを広げることができる。
	語句の意味、文語や訓読のきまりを理解し、日本の文化の特質や外国の文化との関係について考えることができる。	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えるとともに、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	すすんでさまざまな古典の文章を読み、先人のものの見方、考え方との関わりの中で伝え合う力を深め、自分の思いや考えを広げようとすることができる。
	古文を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについてじゅうぶんに理解することができる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈することができる。	さまざまな古典の文章に親しみ、日本の伝統的な言語文化に対する理解を深めようすることができる。
	古文を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解しようとすることができる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈しようとすることができる。	授業を受けるための準備を整え、さまざまな古典の文章に親しもうとすることができる。
評価方法	授業・小テスト・定期考査	授業・小テスト・定期考査	授業・小テスト・定期考査・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	(古文)『十訓抄』『宇治拾遺物語』『古今著聞集』『徒然草』『方丈記』 (漢文)『季札挂劍』『漱石枕流』『梁上君子』『病入膏肓』『不顧後患』『紀昌貫虱』『畏饅頭』
2 学期	(古文)『竹取物語』『伊勢物語』『大和物語』『枕草子』 (漢文)『鹿柴』『宿建德江』『春夜洛城聞笛』『別董大』『涼州詞』『送友人月夜』『鴻門之会』『四面楚歌』
3 学期	(古文)『源氏物語』『大鏡』 (漢文) 儒家・道家の思想 論語、孟子、荀子、老子、莊子

何で学ぶか(教材)

三省堂『精選古典B改訂版』 数研出版『体系古典文法』 数研出版『体系古典文法 準拠ノート』 尚文出版『新明説漢文』 桐原書店『重要古文単語315』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習(学級単位による授業)

科目名	数学Ⅱ	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け、別解の考察、条件の変更、異なる表現の工夫など、多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り、評価・改善しようとするとともに、数学のよさを認識し、味わうことができる。
基	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋をや、よりよい解決を求めて、粘り強く考え続けることができる。
準	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し、適切な用語・記号を使い、解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	簡単な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数
2 学期	第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法 2学期期末考査までに数学Ⅱの内容は終了し、それ以降は数学Ⅲ序説の内容に進む。
3 学期	

何で学ぶか(教材)

・改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版) ・チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B (数研出版) ・プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 概念などを自ら論理的に説明できる力まで養うような働きかけを行いたい。
--

科目名	数学Ⅲ序説	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	S 使える 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け、別解の考察、条件の変更、異なる表現の工夫など、多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り、評価・改善しようとするとともに、数学のよさを認識し、味わうことができる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋をや、よりよい解決を求めて、粘り強く考え続けることができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し、適切な用語・記号を使い、解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 簡単な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	
2 学期	2学期期末考査以降 第1章 複素数平面
3 学期	第2章 式と曲線

何で学ぶか(教材)

・改訂版 高等学校 数学Ⅲ (数研出版) 購入は次年度 ・チャート式 解法と演習 数学Ⅲ (数研出版) 購入は次年度 ・プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 概念などを自ら論理的に説明できる力まで養うような働きかけを行いたい。

科目名	数学B	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	S 使える 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け、別解の考察、条件の変更、異なる表現の工夫など、多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り、評価・改善しようとするとともに、よさを味わうことができる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋をや、よりよい解決を求めて、粘り強く考え続けることができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し、適切な用語・記号を使い、解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 簡単な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形 空間のベクトル
2 学期	等差数列と等比数列 いろいろな数列
3 学期	いろいろな数列 漸化式と数学的帰納法 演習

何で学ぶか(教材)

・改訂版 高等学校 数学B (数研出版) ・チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B (数研出版) ・プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 問題解決的な手法を導入し、概念を創り出す場面を経験させたい。
--

科目名	世界史A	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学 コース	理
目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S A B C	世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けて考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。	世界の歴史に対する興味・関心を高め、意欲的に課題に取り組み追及している。
	世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ、他と協働しながら課題を解決することができる。
	世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件と関連付けながら理解している。	問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取ることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	世界の歴史についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。	過去の出来事が、現在の国・集団・地域の現状に影響を与えていることを知る。	授業を受けるための教材の準備をし、授業に意欲的に参加し発言することができる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	前近代の諸文明 アジア・アフリカ・ヨーロッパ・南北アメリカの文明 一体化に向かう世界 繁栄するアジア・大航海時代
2 学期	欧米の工業化とアジア諸国の動揺 ヨーロッパとアメリカの諸革命・アジア諸国の動揺・東アジアの大変動 現代社会の芽生えと世界大戦 第一次世界大戦・民族自決・第二次世界大戦
3 学期	冷戦から地球社会へ 冷戦・冷戦の終結・地球社会への歩み

何で学ぶか(教材)

帝国書院『明解 世界史A』 帝国書院『明解 世界史Aノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	世界史B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	世界史Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
	A わかる	諸問題（政治・外交・経済等）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	世界史のとびら、序章 先史の世界 第1章 オリエンと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成
2 学期	第4章 イスラーム世界の形成と発展 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開（前半）
3 学期	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開（後半） 第7章 アジア諸地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成（導入）

何で学ぶか(教材)

山川出版社『改訂版 詳説 世界史B』 啓隆社『新世界史要点ノート 応用編』 啓隆社『世界史重要語句Check List』
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 課題 討議

科目名	生物	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学	コース
目標	生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 生物の基本的な概念・原理・現象を十分に理解し，数値の取り扱いも確実にできる。 実験，実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ，実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち，調べたり考察したりする。
	<i>A</i> わかる 生物の基本的な概念・原理・現象を概ね理解し，数値の取り扱いもできる。 実験，実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることともに，考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	<i>B</i> できる 生物の基本的な概念・知識が概ね身についている。 実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり，教え合ったりできる。
	<i>C</i> する 生物の基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し，積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート 等

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 編 生命現象と物質
2 学期	第 2 編 生殖と発生
3 学期	第 3 編 生物の環境応答

何で学ぶか(教材)

教科書(数研 改訂版生物(310)) ワーク(数研 リードα生物・生物基礎) 資料(数研 フォトサイエンス生物図録)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習 実験，実習 グループ活動

科目名	総合的な探究の時間	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	「人生100年時代」について、様々な角度から学び、今までどう生きてきたか・これからどう生きていきたいかを、今の自分の視点から考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	他者との会話や書籍など授業内で学んだ知識をもとに工夫を加えて知識・技能を使える。	論文を考える中で、特に独創性があり、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して特に積極的に取り組み、課題を自ら設定して解決することができる。
	他者との会話や書籍など授業内で学んだ知識をもとに、求められる水準で知識・技能を使える。	論文を考える中で、独創性があり、他者とも協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して積極的に取り組み、与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	他者との会話や書籍など授業内で学んだ知識をもとに課題をやり遂げることができる。	論文を考える中で、他者とも協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して熱心に取り組み、与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	他者との会話や書籍など授業内で学んだ知識をもとに、課題に取り組もうとする。	論文を考える中で、他者とも協調しながら構想を形にしようとすることができる。	学習内容に積極的に取り組み、与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法	論文作成に至るまでの成果物と論文	論文作成に至るまでの成果物と論文	論文作成に至るまでの成果物と論文

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	職業調べ 大学・学部・学科調べ 書籍の要約
2 学期	書籍に関連する講義 論文プラン作成 論文作成
3 学期	論文作成 自己評価 他者評価

何で学ぶか(教材)

書籍「LIFE SHIFT」 書籍「科学的な適職」 オリジナルプリント クロムブック

どのように学ぶか(授業方法など)

- 資料の要約作成（個人） - クロムブックでの作成 - 講師招聘 など
--

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	志学	コース
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

科目名	地理B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える S	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。
	わかる A	諸問題（災害、エネルギー問題、食料問題、人口など）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。
	できる B	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。
	する C	基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能 1 章 地理情報と地図 2 章 地図の活用と地域調査 第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1 章 自然環境
2 学期	2 章 資源と産業 3 章 人口、村落、都市
3 学期	4 章 生活文化、民族・宗教

何で学ぶか(教材)

帝国書院 新詳地理B 帝国書院「新詳地理資料COMPLETE2021」 帝国書院「新詳高等地図」
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 作業（白地図を利用した作業など） 討議

科目名	日本史B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	歴史的思考力を培うなかで基礎歴史事項の確認とともに、多様化する現代社会の中での課題を考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
基	日本史と各地域の歴史の関連性を理解することができる。	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
準	日本史と世界史を関連づけながら理解することができる。	平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	日本史を理解するために必要な語句を理解することができる。	日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	日本文化のあけぼの 律令国家の形成 貴族政治と国風文化
2 学期	中世社会の成立 武家社会の成長 幕藩体制の確立
3 学期	幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺

何で学ぶか(教材)

詳説日本史B (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	美術 I	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	志学	コース 理
目標	幅広い美術活動を通して美術を愛好する心情を育むと共に、美術の歴史と大作画家の名作に触れることで美術文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	正確な描写, 明度の表現ができる。他者への指導もできる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	全ての学習を通して表現を工夫することができる。
	物の表現がある程度のレベルまで表現ができる。	形, 材質, トーンの表現ができる。	デッサン, 彩色学習に積極的に取り組むことができる。
	基礎的な表現法を身につけることができる。	構図を考えて, 表現することができる。	デッサン, クロッキー, 鑑賞・美術理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	基礎的な描写理論を理解することができる。	美術に関心を持ち, 描写や彩色に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション 名画鑑賞 2 ダビンチの人生とその作品, 背景と作品の模写 フェルメールの人生とその作品, 背景と作品の模写
2 学期	色彩構成 ポスター作製 砂絵の世界 1 サンドアートセットを使って
3 学期	砂絵の世界 2 オリジナル作品の制作 まとめ

何で学ぶか(教材)

高校生の美術 1 (日本文教出版) 副教材 スケッチブック, 水彩画用具 サンドアートセット。 それぞれの題材や活動で必要な材料は, 半期ごとに購入してもらいます。

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 作品鑑賞, 作品, 作者説明 作者の生き様、時代背景までを理解しながら芸術作品を鑑賞する (YouTube などの映像コンテンツの使用)
--

科目名	物理	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	志学	コース
目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 物理学の基本的な概念や原理・法則を深く理解し、応用的な問題において式を立て、解を導くことができる。	図表やグラフ、解の意味を読み取って深く考察することができるとともに、グラフ等を用いて適切に表現できる。	グループワークや実験等において深く探究しようとする姿勢を持ち、調べたり考察したりできる。
	A わかる 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な問題において式を立て、解を導くことができる。	図表やグラフを正確に読み取って考察することができるとともに、グラフ等を用いて適切に表現できる。	グループワークや実験等において自らの役割を見出し主体的に活動できる。
	B できる 物理学の基本的な概念や原理・法則がある程度理解でき、公式を扱うことができる。	図表やグラフを正確に読み取り、考察することができる。	グループワークや実験等において、分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する 物理学の基本的な概念や原理・法則がある程度わかる。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	グループワークや実験等において、積極的に発言するとともに課題レポートに取り組むことができる。
評価方法	定期考査 確認テスト 課題レポートなど	定期考査 確認テスト 課題レポートなど	定期考査 確認テスト 課題レポートなど

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 編 力と運動 第 1 章 電流 第 2 章 電流と磁場 第 3 章 運動量の保存 第 4 章 円運動と万有引力
2 学期	第 2 編 熱と気体 第 1 章 気体のエネルギーと状態変化 第 3 編 波 第 1 章 波の伝わり方 第 2 章 音の伝わり方
3 学期	第 3 章 光 第 4 編 電気と磁気 第 1 章 電場

何で学ぶか(教材)

教科書（『改訂版物理』数研出版） 問題集（『リードα物理・物理基礎』 Google Classroom ロイロノート

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 グループワーク 実験や探究活動

科目名	保健	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	志学	コース
目標	生涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、自らの行動を振り返り、状況に合わせてしなやかに行動する力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	社会生活における健康の保持増進に関わる事情から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	A わかる	各段階における健康の課題や我が国の健康・医療制度や機関の適切な活用の仕方がわかる。	社会状況や自らの用途に応じて、適切な施設や制度の選択ができる。	様々な健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	B できる	健康の保持増進には、個人的要素だけでなく、社会的要素が深くかかわっていることを理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	思春期と健康、性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康、避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学期	中高年期と健康、医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学期	大気汚染と健康、水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備、食品の安全を守る活動 働くことと健康、働く人の健康づくり

何で学ぶか(教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習
